

学校教育

6 教育に関する事務の管理・執行状況の点検・評価

重点目標1 「ともにづくり、みんなが育つ学校」の創造

基本施策	取組状況等	評価
<p>(1) 一人一人の子どもを大切にする学校</p> <p>保護者・地域・関係機関と連携・協働して一人一人の子どもを大切にする教育を推進する。</p>	<p>【取組状況】</p> <p>(人権・同和教育の推進) : B</p> <ul style="list-style-type: none"> 全ての小・中学校で、人権対策協議会西条支部との合同研修会を行い、「差別の現実学ぶ」研修会を開催した。 丹原東中学校において行われた文部科学省人権教育研究指定校事業(26・27年度)の2年間の取組を事業終了後もしっかりと継承していくため、性的マイノリティの理解を進める愛媛大会「全国虹の大会」に参加し、これまでの取組と今後の展開について発表した。 丹原東中学校での「性的マイノリティ」の取組を市内全体に広めるために、先行研究された授業について、基本的な3指導案を全中学校に配付し、授業実践を行った。 <p>(生徒指導の充実) : A</p> <ul style="list-style-type: none"> 「西条市いじめSTOP子ども会議」「西条市いじめSTOP中学生会議」を開催し、市内13小学校、10中学校の代表児童生徒が参加した。参加児童生徒は、それぞれの学校の活動について意見交換し合い、いじめ撲滅のリーダーとなって、自校の取組の推進に貢献した。 ハートなんでも相談員や不登校対策非常勤講師、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等との連携により、校内生徒指導体制を充実させた。 中・高生徒指導主事連絡会や青少年育成センター、警察等関係機関との生徒指導に関する情報交換を充実させ、連携を強化した。 <p>(特別支援教育の推進) : B</p> <ul style="list-style-type: none"> ウイングサポートセンター発達教育支援専門員の活動をサポートし、就学指導の常時相談体制を充実させた。このことにより就学先の特別支援教育コーディネーターとも連携が図られ、就学先の見学もスムーズに行うことができるようになってきている。保護者、就学先の学校ともに適切な就学相談活動ができるようになった。 特別支援教育コーディネーターが中心となり、事例研究や障がい種別研修会、ウイングサポート発達教育支援専門員を招へいた研修を積極的に実施して、校内教育支援委員会が充実したものになった。 <p>【今後の課題と取組の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学校における人権課題の設定及び人権教育3か年計画の見直しと「差別の現実深く学ぶ」校内研修の充実 丹原東中学校の「性的マイノリティ」に関する取組の市内全中学校での実践 	<p>B</p>

学校教育

<p>(2) 子どもの成長を支える家庭や地域との連携・協働</p> <p>学校や子どもの様子を積極的に情報発信するとともに、地域の人的・物的資産を活用し、子どもの成長に生かす。</p>	<p>【取組状況】</p> <p>(家庭・地域への積極的な情報発信) : A</p> <ul style="list-style-type: none">・ 学校のホームページの充実を図るとともに報道機関との連携を密にし、多角的な情報発信に努めた。・ 不審者情報については、学校、警察、西条市PTA連合会が連携し、連絡メールサービスなど、ICTを活用することで広くかつ迅速に保護者や地域の方々にも情報提供し、児童生徒の見守りを強化した。 <p>(家庭・地域との連携強化) : A</p> <ul style="list-style-type: none">・ 学校評議員制度を活用し、課題に応じて評議員からの意見を求め、学校運営に反映させるよう努めた。・ 総合的な学習の時間において、福祉教育や勤労生産学習の講師を地域の方に依頼した。・ 市PTA連合会と連携し、携帯電話・スマートフォン・ゲーム機器などのトラブルから子どもたちを守る「ネット社会から子どもを守る安全宣言」を活用し、その普及啓発に努めた。 <p>【今後の課題と取組の方針】</p> <ul style="list-style-type: none">・ タイムリーかつ魅力ある情報発信の方策の検討・ 地域の人的・物的資産の発掘と更なる有効活用のための仕組みづくり・ 「ネット社会から子どもを守る安全宣言」の更なる周知と活用	<p style="text-align: center;">A</p>
---	--	--------------------------------------

学校教育

<p>(3) 教師力の向上と学校力の充実</p> <p>教職員の教科指導や生徒指導の力を向上させるとともに、教育目標を具現化するためにチームとして取り組む学校づくりに努める。また、幼児・児童・生徒が安全で安心な学校生活ができる教育環境の整備・充実に努める。</p>	<p>【取組状況】</p> <p>(学校マネジメント力の向上) : A</p> <ul style="list-style-type: none"> 全ての学校が、自校の教育理念や教育目標、経営方針を明確に示したグランドデザインを作成し、地域・保護者・関係機関等に周知しながら、創意ある教育課程の編成・実施に努めた。 また、全ての学校が学校評価を実施し、P D C Aサイクルを確立して、学校運営の改善に努めた。 <p>(教職員の資質能力の向上) : B</p> <ul style="list-style-type: none"> 各校で、授業評価システムを組織的・継続的に活用し、授業改善に努めるなど、教職員の授業力向上を図った。 各校の教育理念や教育目標、経営方針を明確化し、教職員一人一人の危機管理意識を高めたり、服務規律を徹底したりする研修を各校で実施した。 <p>(教育環境の整備・充実) : A</p> <ul style="list-style-type: none"> 各校で、危機管理マニュアルの見直しを行うとともに、避難訓練の充実を図った。 児童生徒をまもり育てる協議会を開催し、地域や関係機関等との連携を図りながら、安全・安心な学校づくりを進めた。 全中学校の普通教室及び特別支援学級の教室に電子黒板を設置し、前年度に設置が完了していた小学校を含めて、全ての学校において I C Tを活用することができる教育環境を整えた。 I C Tを活用した校務支援システムを有効活用することにより、校務の効率化を図り、子どもと向き合う時間の確保に努めた。 <p>【今後の課題と取組の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種研修会の充実 全小・中学校における I C Tの有効活用 	<p style="text-align: center;">A</p>
---	---	--------------------------------------

学校教育

重点目標 2 知・徳・体のバランスのとれた子どもの育成

基本施策	取組状況等	評価
<p>(1) 確かな学力の定着と向上</p> <p>基礎的・基本的な知識・技能の定着とともに、学んだことを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力、自ら進んで学習に取り組む態度の育成を図る。</p>	<p>【取組状況】</p> <p>(学習指導要領の趣旨を踏まえた「わかる・できる・楽しい」授業の創造) : B</p> <ul style="list-style-type: none"> 全小・中学校で「学びあい学習」を取り入れた授業改善を推進した。特に中学校においては、市内全中学校で公開授業を行い、「学びあい学習」の定着を図った。 市内の小・中学校 35 校を 5 の共同研究グループに分け、グループ内で小中連携を進め、5 校の拠点校と協力校でスーパーバイザーを招聘した「学びあい学習」の研究授業を実施した。 小学校 1・2 年の国語、算数、中学校 1～3 年の英語のコピー可能な学習教材を学校に配付し、ドリル学習や授業等で活用し、児童生徒の学習習慣の確立を図った。 県学力診断調査、定着度確認テストの実施、調査結果の分析と活用を通して、授業改善に取り組んだ。 小学校 5 年、中学校 1 年を対象として市内一斉に学力診断調査を実施した。得られた結果から各学校の課題を明確にして、その対策を立て、児童生徒への補足的・発展的な指導や個に応じた指導を徹底し、学力の定着・向上を図った。 A L T や外部講師を積極的に活用し、創意ある授業を展開した。 社会科副読本等、地域や幼児・児童・生徒の実態に応じた教材を積極的に活用した。 I C T を活用したり、授業のユニバーサルデザイン化を図ったりして、よく分かる楽しい授業づくりに取り組んだ。 <p>(言語活動の充実) : B</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領で求められている言語の力を育むため、授業公開を行うなどして、積極的に校内研修を実施した。 市内の各教科部会における研修で、知識・技能を活用してレポートの作成や論述を行うなど、思考力や表現力、判断力を養う学習の大切さについて共通理解を図り、授業実践に努めた。 <p>(家庭との連携による学習習慣の定着) : B</p> <ul style="list-style-type: none"> 各校で学力の定着・向上を図るために、家庭学習の仕方について、手引書を作成・配付した。また、有効活用を図るための手引書の使い方等について保護者へ説明を行った。 <p>【今後の課題と取組の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員の授業力の向上を図り、児童生徒の学力の向上を目指すための、I C T を活用した「学びあい学習」の一層の推進 市で選定した学力診断調査実施事業の実施 (H26 年度より継続) により、各学校の課題と対策を明確にして、児童生徒への補足的・発展的な指導や個に応じた指導の徹底 愛媛学びの森学習支援サイト及び市の問題データベースの積極的な活用による児童生徒の学習習慣の確立 教育心理調査を実施・考察し、学力向上に繋がるよりよい学級づくりに活用 確かな学力の定着と向上のための効果的な取組についての情 	<p>B</p>

学校教育

	<p>報交換</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 言語活動の充実のためのより効果的な校内研修の実施 ・ 家庭学習の重要性や学習の仕方についての啓発活動の一層の充実 	
<p>(2) 豊かな心の育成</p> <p>豊かな体験を通して、生命を尊重し、感動する心を持ち、礼儀や規律を重んじる心の育成を図る。</p>	<p>【取組状況】</p> <p>(自己を見つめ生き方を考える道徳教育の推進) : A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各校の道徳教育推進教師を中心に、指導体制を充実させ、道徳の時間を要として学校の教育活動全体で行う道徳教育を推進した。 ・ 文部科学省「特色ある道徳教育推進事業」の研究指定校として神拝小学校が研究発表会を実施し、取組の成果を市内外に普及・啓発した。 <p>(優れた芸術や伝統文化、異文化に触れる活動の充実) : B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 文科省が行う子どもの文化芸術体験事業に積極的に取り組み、派遣事業では4校512名、巡回事業では7校1,703名の児童が優れた文化・芸術に触れることができた。 ・ 中学3年生30名をニュージーランドへ派遣し、ホームステイや現地の中学生との交流を行い、貴重な国際交流体験をすることができた。 <p>(ふるさとを愛する心を育てる教育の推進) : B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各校で地域の歴史等を学び、伝統文化の大切さを再確認した。 ・ 各校で実施した西条市の偉人についての学習を基に、代表児童生徒による作文集を作成して、地域を愛し誇りに思う心を育てた。 <p>【今後の課題と取組の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ A L T の配置の見直しと国際理解教育の一層の推進 ・ 道徳性を養う地域教材の開発 ・ 地域の伝統芸能の積極的な伝承 	<p style="text-align: center;">B</p>

学校教育

<p>(3) 健やかな体の育成</p> <p>生涯を通じて活力ある生活を送るための基礎となるたくましい体の育成を図る。</p>	<p>【取組状況】</p> <p>(体力づくりの推進) : B</p> <ul style="list-style-type: none">市小学校体育連盟研究部員等を対象に愛媛大学から講師を招き定期的に研修会を開催し、教職員の指導力向上を図った。水泳や陸上記録会、ちびっこ駅伝大会等を機会として体力向上を目指した取組が行われた。中学校の運動部活動に対し、各種大会参加に係る費用の補助を行い、部活動の振興に努めた。新体力テストの結果を分析し、児童・生徒の体力向上に生かした。文部科学省委託の事業を受け、モデル校で外部講師を招聘し、体力向上の取組のプログラムを作成した。また、市内全ての学校で「体力アップ推進計画」を作成した。 <p>(食育の推進) : B</p> <ul style="list-style-type: none">給食を教材として、地産地消に取り組むことの大切さや地場産品についての学習を行った。食育関係団体等の協力の下、市内の学校から 10 チームが参加して、地元産食材を使用した「学校給食レシピコンクール」を実施した。また、親子で市内農場を見学して収穫体験を行い、その食材を使用して料理教室を行う「旬菜めぐり」を実施するなど、体験的な食育活動を行った。 <p>(学校給食における運営等の検討) : A</p> <ul style="list-style-type: none">学校給食関係者で様々な検討を行い、適切な食物アレルギー対応を行うため、文部科学省対応指針に沿った「学校給食における食物アレルギー児童生徒への対応マニュアル」の見直しを実施し、安全で組織的な対応が可能となった。 <p>(規則正しい生活習慣の確立と薬物乱用防止教育等の推進) : B</p> <ul style="list-style-type: none">規則正しい生活習慣の確立のため、「早寝・早起き・朝ごはん」のキャッチフレーズの下、児童生徒や保護者・地域への啓発を行った。学校薬剤師や保健所、警察等関係機関の協力を得て、薬物乱用防止教室を開催し、タバコや危険ドラッグについて、理解を深めた。 <p>【今後の課題と取組の方針】</p> <ul style="list-style-type: none">えひめ愛顔のジュニアアスリート発掘事業への積極的な参加えひめ国体への小・中学生の参加保護者や地域に対する食育の啓発活動の充実規則正しい生活習慣の確立における、家庭や地域への啓発活動の強化平成 31 年度までに、新体力テストにおいて県内トップクラスの実現	<p>B</p>
--	--	----------

学校教育

重点目標 3 西条市の特色ある学校教育の取組の推進

基本施策	取組状況等	評価
<p>(1) ICTを活用した「学びあい学習」の推進～学びの質を高め、深めるアクティブ・ラーニングの実践～</p> <p>学習意欲を高め、基礎的な知識・技能の確実な定着を図り、問題解決能力を育成し、主体的・協働的な学びを展開し、学力の向上を実現するために、ICTを活用した「学びあい学習」を推進する。</p>	<p>【取組状況】</p> <p>(西条っ子学びの向上推進事業) : B</p> <ul style="list-style-type: none"> 市内小・中学校における「学びあい学習」の実践研究を進め、教職員の授業力の向上を図りながら児童生徒の学力を図った。 市で実施する学力診断調査の結果を分析し、各校の課題を明確にして、その対策を立て、個に応じた指導等を徹底し、学力の定着・向上を図った。 <p>(小・中学校 ICT教育推進事業) : B</p> <ul style="list-style-type: none"> 市内全小・中学校に設置された電子黒板をはじめとする ICT 機器類及び校務支援システムを有効活用するための支援・研修体制を整えた。 ICTを有効に活用することで、子どもたちの学力の向上及び教育の質の向上を図るとともに、校務の効率化を図ることで教職員が子どもたちと向き合う時間を創出するとともに、教職員の負担軽減に努めた。 <p>(ICT機器を活用した 21 世紀型スキル教育実証事業) : A</p> <ul style="list-style-type: none"> モデル校の神戸小学校を中心とし、教育の情報化にかかる先端的な検証を行った。 「小・中学校 ICT教育推進事業」の実施に伴い、全ての小・中学校の教職員に ICT の利活用が十分に行き渡るよう、必要な研修・指導に努めた。 <p>(人口減少社会における ICT の活用による教育の質の維持向上に係る実証事業) : A</p> <ul style="list-style-type: none"> 人口過少地域にある小規模校が抱える課題を ICT によって軽減・解消することを目指し、学校間の教室を WEB 会議システム等で結び、大画面のスクリーンを利用して一つの授業を行った。本事業により生まれる効果・価値を見出しながら、子どもたちの学びの充実を図り、教育の質の維持・向上を図った。 (実証校：田滝小学校、徳田小学校、田野小学校、連携校：丹原小学校、丹原東中学校) <p>【今後の課題と取組の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育の情報化による子どもたちの学力の定着と向上 (平成 31 年度までに県内トップクラスを目指すこと) 21 世紀型スキルを効果的に育成するため、神戸小学校で検証を行ったタブレット等の全校展開 次期学習指導要領の全面実施（平成 32 年度小学校、平成 33 年度中学校）を控え、国が定める整備目標の早期達成 	<p style="text-align: center;">B</p>

学校教育

<p>(2) 防災教育の充実・発展</p> <p>安心・安全な学校・地域をつくるとともに、未来の西条市を担う若者（リーダー）の育成を図るため、防災教育を推進する。</p>	<p>【取組状況】</p> <p>(12歳教育推進事業)： A</p> <ul style="list-style-type: none"> 子ども防災サミット（第1回代表児童 54名、第2回6年生約 1,000名参加）と防災キャンプ（代表児童 54名参加）を実施し、学校・地域で活躍できる未来のリーダー育成を図った。 第1回防災サミットや防災キャンプに参加した代表児童が中心となって、各小学校で創意工夫した防災教育の実践がなされた。 12歳教育担当者を年間計画に位置付け、各校の12歳教育担当者の指導力向上に努めた。 <p>(西条市防災教育推進連絡協議会)： A</p> <ul style="list-style-type: none"> 愛媛県教育委員会から学校防災アドバイザー2名（愛媛大学防災情報研究センター長等）の派遣を受け、市内幼・小・中・高校の防災管理担当者 49名を対象に、市危機管理課による気象情報と避難情報について説明、学校防災アドバイザー講話、防災マニュアルの確認体制や教職員間の情報共有の充実、避難所運営への関わり方、地域との連携等についてグループ協議を実施し、防災に関する共通認識を深め、異校種間の連携を図った。 <p>【今後の課題と取組の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 12歳教育推進事業の効果の検証と見直し 防災教育における小学校と中学校の連携 地域を巻き込んだ防災教育の充実・発展 	<p style="text-align: center;">A</p>
<p>(3) コミュニケーション能力の育成</p> <p>豊かな感性や社会性、自分の思いを伝える力、他者の考えを受け入れる力、よりよい集団やコミュニティをつくろうとする意欲を育むため、コミュニケーション教育を推進する。</p>	<p>【取組状況】</p> <p>(コミュニケーション教育推進事業)： B</p> <ul style="list-style-type: none"> 西条市がコミュニケーション能力の育成を目的として、積極的に取り組んでいる「コミュニケーション教育推進事業」では、芸術家集団による創作活動を取り入れたワークショップ型の授業を行っており、平成28年度は7校で実施した。 <p>【今後の課題と取組の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> コミュニケーション教育の更なる充実と普及・啓発 	<p style="text-align: center;">B</p>

学校教育

<p>(4) 幼・保、小、中、高の連携・協働 協力体制の確立</p> <p>心身の調和のとれた発達を促し、人間性の基礎を培う教育を推進するため、幼・保、小、中、高の連携を強化する。特に、小学校から中学校の義務教育9年間において、学びの連続性を重視した教育を実現する。</p>	<p>【取組状況】</p> <p>(学校等連携推進事業)：B</p> <ul style="list-style-type: none">・ 中学校区ごとのテーマによる講演会、指導方法の研修、出前授業、体験入学、授業交流、合同職員研修、学力向上の取組、部活動体験、環境改善活動、郷土の歴史や文化財についての学習など、独自性のある活動を行った。・ 幼稚園・保育園からの円滑な義務教育への移行、また、義務教育9年間を見通した指導観の共通理解や継続指導等を行った。 <p>【今後の課題と取組の方針】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 幼・保、小、中、高の教職員の連携の更なる充実	<p>B</p>
--	---	-----------------